

新國際材料試驗協會議事報告

本協會は昨 1931 年 9 月開催せられたる第一回總會 (Zurich Congress) に引續き本年 8 月ウィーン市に第七回常設委員會を開催し左記の件決議せられたる趣此度本部より通牒ありたるに付茲に其略要を報告候

1. 協會規定の改正

規定第四條、會員會費を年額 2.00 弗(米貨)とす(舊規定には年額 1.00 弗(米貨)とあり)。

2. 會名變更の件

本協會名の頭字“新”を除く、即ち次の如し。

International Association for Testing Materials (I.A.T.M.)

Association Internationale pour l'Essai des Matériaux (A.I.E.M.)

Internationaler Verband für Materialprüfung (I.V.M.)

3. 分科長

Section A. Prof. C. Benedicks, Stockholm.

“ B. Director P. van der Wallon, Den Briel.

“ C. Prof. J.O. Boos of Hjelmstater, Stockholm.

“ D. Prof. M. Ros, Zurich.

4. 出版物に関する件

議事報告書 Proceedings of the Zurich Congress は其預約部數多からず且本會收支計算著しく不良状態にあるを以て、會員は出版物の購入又は寄附金募集により之を是正せられんことを希望す。

〔備考〕 Proceedings of the Zurich Congress. 出版所 General Secretary of the I.A.T.M. Loonhardstrasse 27, Zurich, Switzerland. 價格 80-スイス・フラン。

5. 研究機關設置の件

1935 年 London 市に於て第二回總會の開催さるゝ迄を期限として Research Commission を設置し其數を各 Section に付 3 に限定し 1 名の Chairman 及各國より 1 名宛の代表者を参加せしめて調査委員會 (Grand Committee) を組織す。

Chairman は委員會中より 5 名以下の研究團體 (Group for research) を設けて研究を行はしむるものとす。其機關下の如し。

Section A. 鑄鐵 Chairman, Prof. F. Körber, Düsseldorf.

本機關は International Foundry Association と接觸を保つべきこと。

衝擊試驗 Chairman, Prof. Dr. h. c. A. Mesnager, Paris.

本機關は國際提案を作製すること。

Section B. 水硬性結合材 Chairman, Prof. Dr. I. Vandone, Milan.

風化作用 Chairman, Prof. O. Graf, Stuttgart, 協同者 Prof. E. Suenson, Copenhagen 及 Prof. Dr. W. Gelder, Dresden.

容積變化 Chairman, Prof. E. Campas, Liege, 協同者 Prof. L. Baes, Brussels.

- Section C. 木材** Chairman, Prof. K. Ryska, Brunn.
 試料採集及燃料分析 Chairman, H. Kreisinger, N. Y.
 粘性 Chairman, Dr. G. Barr, Teddington.

- Section D. 材料物理性に關する術語**
 Chairman, Prof. H. Rabozco, Brussels.

6. 1932-1935 の期間及ロンドン總會に於て取扱ふべき問題

Group A. 金屬

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 高溫度に於ける材料 | 2. 疲勞 |
| 3. 鋸接 | 4. 輕金屬 (アルミニウム及マグネシウムを含む) |
| 5. 金屬加工性 (machinability) | 6. 鑄鐵 |
| 7. 切欠棒衝撃試験 | 8. 金屬組織學の進展 |
| 9. 軌條 | |

6 乃至 9 の問題は Zurich に於ける決議に従ひ London Congress 迄に充分討議すべきこと。

Group B. 非金屬無機材料

1. ポートランド・セメント
2. 水硬性添加剤を有するセメント類
3. コンクリート, 不滲透性, 凍結及風化に對する抵抗
4. コンクリート及鐵筋コンクリート——内應力狀態及容積變化
5. 同 —— 彈性, 粘性, 疲勞
6. 同 —— 應力, 安定度及安全に關する工學的性質の意義
7. 窯業製品——煉瓦及瓦
8. 天然石
9. セメント及コンクリートに對する化學作用
10. アルミナ・セメント

8 乃至 10 の問題は Zurich に於ける決議に従ひ London Congress 迄に充分討議すべきこと。

Group C. 有機材料

- | | |
|----------|---------------------|
| 1. ベイント | 2. アスファルト及ピッチューメン |
| 3. 織物——絹 | 4. 有機材料の粘化 (ageing) |
| 5. 木材 | 6. 粘性 |
| 7. 燃料 | 8. 紙及セルローズ |

5 乃至 8 の問題は Zurich に於て開始せられたる事業と相俟ち研究出版により London Congress 迄に更に充分討議すべきこと。

Group D. 一般的問題

1. 實驗室試験と靜力的, 動力的應力及安全に對する安定度との關係に於ける意義
2. 物理化學の材料試験に於ける應用としての提案及應用の方法
3. 音響及熱傳導度
4. 腐蝕
5. 彈性, 粘性, 靱性及脆性相互間の基本的及實驗的關係
6. 綱索
7. Simple tests for quantities, and distribution of small amounts and traces of ingredients and of transition products. (原文)
8. 自由物體の寸法決定

9. 試験機の検定及精度

10. 同上に關する製作工場の監督法研究の方法

4乃至10の問題は London Congress までに充分討議すべきこと。

(以上)

追而本年3月31日付C分科擔當 R. Barta 氏よりC分科關係の議題にして1935年ロンドン總會に提出を希望するものは其題目、氏名及住所を本年10月1日迄に通知願度旨來信あり、他分科も之に準ずるものならんと想像仕候に就ては上記各項に關係ある論文御所持の方は取急ぎ筆者宛御提出願度希望仕候 (1932-6-28)

京都帝國大學工學部

西 原 利 夫
近 藤 泰 夫

橋橋改築工事概要

准員 川 中 義 康

橋橋は國道三號線中宮崎市第一の繁華街たる、橋通りと中村町とに跨り大淀川に架設せられたる橋梁である。

此附近は古の橋の小戸にして橋の位置は小戸の渡しと稱し昔は渡舟を以て交通の連絡をして居た、始めての橋梁は明治13年大淀の入船島修齊翁獨力を以て幅3間、長301間の木桁橋を架設したるものである。後縣に於て明治21年に寫眞の如き橋に架替へて以來40有余年間に亙るの姿となつて居た。然るに此間木縣の産業文化は徒に發達し宮崎市の勃興日覺しく交通量は激増し爲に幅員の狹隘と橋體の危弱とを痛感して居た處、昭和2年8月の洪水に流失され、茲に於て災害復舊と國道改良とを合せ接續道路擴張工事を兼ね今回の改築工事を見るに至つたのである。今其概要を示せば次の如くである。

橋 梁

位 置： 宮崎市橋通より中村町に至る

路 線 名： 國道第三號線

河 川 名： 大淀川

橋 長： 385.45 m (212 間)

有效幅員： 16.36 m (9 間)

内 兩側歩道各 2.73 m (1.5 間)

中央車道 10.90 m (6.0 間)

勾 配： 縱斷勾配は 1‰ と 3‰ との拋物線を連絡し横斷勾配は歩車道共 0‰ とす

有效面積： 6,300 m²

内 兩側の歩道各 1,052 m²

中央の車道 4,202 m²

橋の高さ： 平水面上 0.14 m

有效徑間： 24.24 m のもの兩側に各 4 連

32.73 m のもの中央に 5 連